

2026年 矢向あけぼの保育園だより

早いもので、年度最後の月になりました。一年を振り返り、子どもたちの成長の早さと月日が過ぎ去る速さを実感させられる時期だと思います。子どもたちの成長は嬉しいのですが、旅立つ子どもたちもいるので少し寂しくもなり、複雑な感情を抱えています。新しいスタートに向けて準備をしつつ、残りの日々を過ごしていきたいと思います。

今年度も保育運営にご理解とご協力くださり、本当にありがとうございました。

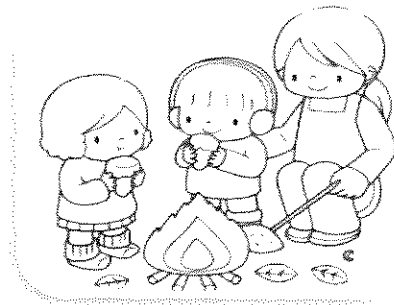


子どもの身体と心を育てる`食`とは？

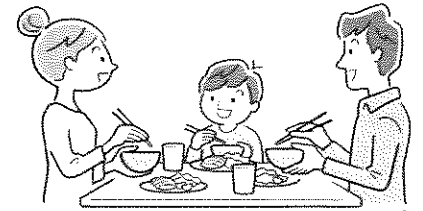
先日、保護者の方々で行う三者懇談会を開催しました。そこで、「あけぼのの食事はありがたい」とっていただきました。

『食べる』という事は、日常を過ごしていく中で欠かせない事です。子どもが元気に大きくなって欲しいと願う親としては、栄養のバランスや食事の量は気になるところです。そのため、ついつい子どもに「ちゃんと食べなさい」と言ってしまう事や、あの手この手で何とか食べさせようと必死になります。保育園でも同様ですが、まずは『お腹すいたー』となるように、午前中はできるだけ身体を動かして空腹を感じてもらえるように過ごしています。空腹に勝る調味料はありません。その他では、暑い夏に汗を思いつきりかいて食べる、冷えたキュウリやトマト・焚火を囲んで煙の匂いを感じながら食べる焼き芋・毎日自分たちで水やりをして育てた野菜が実になり、収穫して食べた野菜・など、食べる事は味覚だけでなく、心で感じている味がプラスされているのだと思われます。

子どもたちから良く聞く話は、「保育園で育てたピーマンは食べられるけど、お家のは苦いんだよね」といった会話です。自分たちが大事に育てたピーマンには、子どもたちの思いも実に詰まっているのでしょう。↗



▶『食べる』時は、どんな時間・空間・雰囲気・誰と食べたかで感じ方はかわってしまいます。これは、大人も同様だと思います。喜びや感動を共に感じながら、楽しい食事の時間を過ごしていく事が大切です。ですので、安心・安全な食材もとても大切ですが、心も満たされる食の時間をつくっていけるような保育を心がけたいと思っています。



学校・保育園の人手不足がすすむ

先日のニュースで、全国で公立学校の教師が不足しているといっていました。昨年度も学校の先生が足りないと言っていたのが、前年よりも悪化している現状であると思われます。実際、担任を副校長・教頭が代替しているケースや、校長が授業を担当している等とても深刻な状況だと思いました。保育士も同様でずっと不足していますが、それ以前として養成校が、閉校していて保育士になりたいと思ってくれる若い世代がいなくなっているのだと、思われます。先生と言われる職業は大変というイメージが固定化されているからだと思われます。少しでも、子育てに関わる仕事が魅力的に感じてもらえるような取り組みが必要だと思いました。

園長 飯田雅美